



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2022.2.10 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

解説: 幼児教育その1「文学表現」

国が法律で定めている幼児教育の5つの分野というものがあります。

「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」

これら5つは独立しているものではなく、それぞれが深く関係し合っています。「健康」とは、食べることや身体づくりなどです。「人間関係」は他人とのコミュニケーション。「環境」は自然とのかかわり。「言語」は話しことば・書きことばの学び。そして「表現」。その中には絵画表現、文学表現、音楽表現などあります。

表現活動というと、様々な作品として形になるため、子どもの成長がはっきり見えます。親御さんとしても楽しいものです。しかし重要なことは表現される前段階にあります。見落とされがちなポイントです。

それは子ども自ら、頭の中でイメージする力です。自由な発想、自由な空想力です。

もちろん基礎や基本は重要です。しかしアウトプットされる形を重視するあまり、あまりに誘導的な指導をすることはどうでしょうか。あくまでも子ども自身の主体性、意志を育むものでありたい。私たちはそう考えています。



★まずは「絵本」から…

今回は「文学表現」を取り上げます。文学表現といえば「絵本」。「本離れ」といわれて久しいですが、その原点は絵本にあります。

絵本は「コミュニケーションのツール」です。「絵本好き」の前に「読んでくれるお母さん・お父さんが好き」があります。大好きなお母さんと一緒に遊べるツールとしての「絵本」です。ここが出発点です。

絵本を読んでもらったときの心地よさが本好きにつながります。絵本に親しんで手にするようになれば、学校に進んでからもどんどん本を手にするようになるものです。



南部愛子
名誉園長

耳からはいてくる日本語も重要ですし、自分がしゃべる語彙を増やしていくことも大事です。絵本作家は正しい日本語を正しく理解してほしいと思っている人がほとんどだと思うので、より美しい日本語に触れられると思います。

★イメージの世界の重要性

子どもは自分の頭の中にイメージを描きます。そのイメージを描く際の補助になるのが「絵」です。絵を見て刺激され、頭の中のイメージを広げていきます。

だから子どもがイメージの中で遊んでいるのを途中で「バン！」と遮断することはあまり好ましくありません。絵本の読み聞かせで重要なことは、できるだけ途中で切らないこと、子どもに問いかけないことです。ファンタジーの中に没頭してもらうことです。

★「素話(すばなし)」までのステップ

絵本の読み聞かせを十分行ったら、次は絵の付いていない「言葉だけの本」を読んであげます。イラストがないのですが自分の頭の中で絵を描くわけです。

その先に「素話」があります。

**「絵本」→「本(イラストなし)」→「素話」
というステップ**

素話は本を使わず、大人が覚えているお話を話すことです。こうしたステップを踏むことで、人の話を聞いても自分の頭の中でイメージしながら理解できるようになります。

人の話の聞くことが苦手な子どもがいます。「話しことば」という抽象物を、具体的なイメージにできないのです。学校に上がって困らないように、こうしたステップを刻むことは大切でしょう。

★「絵本」と「紙芝居」の違いとは？

紙芝居、というと懐かしい感じがします。饒舌な紙芝居のおじさんが、群がる子どもたちを熱狂させるイメージが浮かびます。

紙芝居は「芝居」ですからお話が外に出きます。子どもがお話の中に入り込むではありません。ここが違うところです。

紙芝居では「ワー！」と一緒に遊んだり声を出したりします。絵本の読み聞かせとは、教育効果が異なるのです。紙芝居は物語の中から飛び出した主人公と、子どもが遊びますが、

絵本は物語の中に子どもが入る

といえます。まさに「子どもが主人公になったような体験」ができるのです。

絵本の方が、想像力がより豊かになります。主人公が物語の中から出てきてしまったら、そのままです。ディズニーランドのキャラクターと遊んでいるのと同じですね。最もそれはそれで楽しいのですが…。

紙芝居は枚数が決まっています。原作はとて面白い話なのに途中でカットされたり、ストーリーが変更されていたりするものがあります。絵本の原作どおりを紙芝居にすると膨大な量になります。そんなに長い紙芝居はありません。中には前編・後編に分かれていたりします。だ

から紙芝居をやるときは、内容をよく検討して行う必要があります。

★シミュレーション力をつける絵本

最終的には「素話」が静かに聞けるようになることで、絵を頭の中に描くことができます。

大人は人と話すとき、頭の中にイメージなどを浮かべていますね。その土台を築くことを、極めて幼少の頃から体験できます。ちょっと大げさにいえば、

**自分の人生のシミュレーションをするには
この「イメージ力」がないとだめです。**

イメージする力は「人に共感できる力」につながります。コミュニケーション能力の基礎です。どんなに話術が巧みでも、どんなに文章力があっても、他者への共感に欠けると受け入れられません。いわゆる「空気を読む」といった感覚です。

今の若い人たちはこの「空気を読む」ということに非常にナーバスです。人との「間(ま)」が持てない、持たないといえます。お笑い芸人に人気が集まるのもそうした背景がありましょう。「笑い」こそ、究極の共感です。相手のユーモアのつぼを先取りすることですから。それはとにかく…

イメージ力を広げるものは何も絵本だけではありません。「ママごと」にしてもお母さんをイメージしながら遊んでいるわけです。イメージする力を育むひとつ方法としての「文学表現」というわけです。(次号 2/25 に続く)